

とんからりん

サカタニ友の会ニユース

発行所
株式会社サカタニ
集西薬・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京都七条店
 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下
 ・075-561-7974
URLwww.sosake.jp/
 E-mail・info@sosake.jp
とんからりんは
 毎月発行の
 会員新聞です
 編集・酒谷義郎
 yosi rou@sosake.jp

地震・津波・原発に対する

三つの生き方

あなたはどっと思えますか?

7月20日・日経新聞に電子



左が長谷川代表幹事

版に「経済同友会の長谷川閑史代表幹事が定例記者会見で、政府が西日本の起業や家庭に節電を要請する見通しについて(「企業活動に与える」)影響は大きい。政府から明確な解決策が示されなければ、企業は海外シフトを考えざるを得ない。脅してもなんでもないと警告した。その上で、「来年の電力供給の改善を約束すれば、(海外移転を)抑制する要因になるだろう」との認識を示し、政府に対して原発の再稼働の必要性を改めて訴えた。文でキツク感じ、YouTubeの音声を聞きなおした。言葉使いは官僚的でない。予章に話されていた。

共に死にたい」と決意するまで。ドナルド・キーン)なせ今「日本国籍」を取得するのか」が掲載された。キーン氏 89歳で著名な日本文学研究者、政府や民間から幾つもの「勲章や賞」を得られ30年前に永住権は得られているが、改めて国籍を申請された。

3月11日、東日本大地震と津波の恐ろしい被害のテレビ放映を米国で目にされ、更に「福島原発」の放射能被害を恐れ続々日本から逃げ出す外国人のニユースをニユウヨークで見ると怒りを感じ、けしからんと思ひ、自分は日本国籍を申請した。と書かれている。そして文は「原発をなくすのが一番安全。日本人は先祖代々受継いだ美しい土地、国土を守っていかねばなりません。森が消滅し、水が涸れれば「美しい国・日本」は、ただの伝説になってしまつ、日本人の持ち前に忍耐力がなければ、太陽光や風力など色々な分野での開発が発展していくと信じてます。】(一部抜粋しました)



【在日60年。日本人と共に生き、

「文藝春秋」8月号に

染された美しい里山国の迷走。村人の怒り 家族離散・涙の別れ・全村非難・故郷の崩壊 汚染の真相」が放映されました。



福島第一原発からm北西30KM以上離れた、美しい飯館村



飯館村は福島原発北西30キロ以上離れたはなれた農村。人口は6千余。地震津波の翌月(四月)12日、村最高齢(102歳)の男性が12日に死亡しています。村や遺族は自殺とみている。長引く原発事故で健康被害を

恐れられた家族が村の外に自主避難しており、離ればなれで暮らしていたことを苦にしたとみられる。現在は放射性物質の累積量が高い地域として政府から「計画的避難区域」に指定され全員離村、今は一人を残し全村避難されたようだとつけられた遺書

第79回朝粥食べておしゃべり会

7/17・定例第3日曜・私らしく生きる「INT」の(マイケアプランってなんでしょう?)

お話は佐竹紀美子さん



今回は、高齢者比率東京都一という東山区にふさわしい話です。介護のこと、介護保険のこと、手続きのことなど分りやすく説明いただきます。お話し後・何時も「よび」ギャラリカフェ集でお粥を食べました。4名満席



「とんからりん」

終戦直後、毎晩強制的に「停電」し不自由な生活をした私達の世代は、これまでで勿体ない電気の使い方に違和感をもっていた。

時が経ち「電化」経済発展の図式で「水力」火力「原発」と発電・使用量共に増え、オール電化寸前まで成長した。

国民も電気は有って当然の意識になった。そこへ大地震。電力会社と政府の安全宣伝は福島原発で「化けの皮」が剥がれた。

味も匂いも音も姿も見えず人間の五感では認識出来ない「原子力」。爆弾で効果をしり廃棄処理場も無しに「エネルギー源」に使い出した。

スリーマイル・チェルノブイリ。柏崎の原発事故を「他山の石」せず、自らを過信し安全を振りまき「原発」依存を高め、政府もそれを認めた。

事故後の電力会社・政府の対応は自らが加害者であり、共同正犯の立場だと思つが、第三者的な報告で終始。誤りを認め正す気はなさそうだった。

過つての戦争時、三国同盟した「独・伊」は原発廃止を既に決めた。世界唯一被爆国である日本は本来なら事故直後に廃止を決めるべきと思つた。

ラジウム発見のキュリー夫人も不安を予想したと聞く。ノーベル物理学賞のベクレル博士も今日を悲しむだろう。原発廃止は避難者の願いと思つた。多数で共有したものだ。

ヨシちゃん
の
ひとりごと



土地で変わる

水の味

16年程
宇治市に

住んでいたが、この6月東山区に戻りました。歳を重ねて故郷が恋しくなれたのですと言いたいところですが、根が「仕事馬鹿」で通勤時間が勿体ないが本音です。

都市の格からいえば、宇治市は京都の衛星都市、大関と十両程の差があるでしょう。でも生活者からの視線で比較すると逆転することも少なくありません。例えば「ゴミの分別回収」「市民広報」そして「水」です。残念ながら私の評価では「宇治市」に軍配を上げます。ここでは他の事はさて置いて「水」に絞って書きます。

移り住んだ家は古屋改造で「水周り」は全部新しくしました。住み始め「水道水」を飲み、宇治市の水道と温度と味の差にビックリしました。「店」でも水道水飲んでいましたが、「受・高架水槽」經由。今回は配管を新しくしたので仕方がないと思って二ヶ月経過しました。が同じ状態です。元々「水は金なり」と祖父が言っていた時代から酒屋で

すから、「水の味」には少し敏感なのでしょう。今も店に有った「井戸水」の味を「舌が覚えていてそれを基準にします。蔵元へお邪魔をしても一番に「お水」を戴きます。

京都出水の佐々木酒造さんの水は少し硬い、伏見の松本酒造さんの水はそれよりは少し柔らかい。これは私の家の井戸水はモット柔らかだったと思っています。

各地の酒蔵でも「水のおいしい所は酒も美味しい」です。(八海山・天寿・喜久酔等々)米も麹も腕も出来上がる酒の良否に大きく関係はしますが、私的には「水が第一」と信じています。ですから酒造りには自家井戸や酒造組合管理井戸(宮水等)が使われています。東山区特に貞教学区には私の知るだけでも昭13年「森口・中谷・中村・岡本・北川と五つ酒蔵が集中してありました。その内の中村酒造さんは敗戦後も酒造りをされ銘柄名「開花一」で販売されてきました。現在は19

41年(昭16)5代目宇吉氏が長期熟成させる日本酒の製造経験から「中村菌発酵濾液」



井戸の宮水



伏見：御香水



を發明され、その製品化に成功され、社名も株式会社中村堂とされしてユナルゲンなど各種の医薬品を製造販売されています。元酒造家さんの話でも貞教辺りは「音羽の滝の水」と同じだろうとの事、そう言えば音羽川は清水(五条南から正面の北で疎水に(古くは鴨川)流れ込む姿がありました。

酒粕の効用

先月このページで毎朝お粥に酒粕を入れて食べ続け「血圧が下がった」と私の人体実験結果を書きました。今号はその余録です。

お粥用に吟醸酒粕を沢山求め冷蔵保存しています。必要分だけ冷蔵庫から出し親指サイズに手で千切り、レンジでチンして食べています。仕事で「お札や紙」を扱うことが多く、今までは指先の皮膚が良く割れました。今年はひび割れもなく脂先がしなやかでしつとりして美しくなりまして。不景気でお札を扱う数量

が減ったが最大の理由でしょうが、酒かすを干切った後、手を洗うとクリームを塗ったような良い感触です。酒粕に水を加え、少量の小麦粉を入れ、適度な柔らかさになるまで練り、入浴前、顔を良く洗ってそれを塗り10分ほど置き洗い流すと毛穴が開き乾燥に負けない若々しい肌を保てる「酒粕パック」の勧めの記事を見ました。

化粧品一瓶の値段で酒粕なら1年分を買えるでしょう。私は顔までする気はありませんが、酒粕在庫無し。残念。



気づいて 欲したい あなたの幸せ
目が見えること
耳が聞けること
話をできること
手が動くこと
うんこもできること
足で歩けること
呼吸ができること
心臓が動くこと事故も起きず
大きな病気もせず
何事も特別なことが起きず
なんでもないことが
とても幸せなこと
今の幸せを数えたら
きつと数えきれない
幸せとは手に
入れるものでなく
望むものでなく気づくもの
「たけハンカチ」を写し取りした

たけさん

(河村武明)

プロフィール

2001年10月、突然、脳梗塞で倒れ、48時間後に救出されるものの、失語症と言語障害「もう死んだほうがましだ」という深い絶望感の中、残った左手を使って絵と詩を表現し始める。



今は、「この星に『ありがとう人間』が増えたら明るい星になる」と言う想いで全国500箇所(小学校、中学校、福祉関係は無料)の無口な講義を集め、新聞やテレビ、雑誌などメディアの取材が相次ぎ、2003年にはフジテレビ系「奇跡体験!アンビリバボー」にも出演し、「たけ」の生き方にも共鳴する新たなファンを獲得した。

現在、全国での個展、無口な講演、企業広告、雑誌の連載などその活動は、「日本一無口な路上の絵描き」(たけ曰く)の枠を超えて、広がり続けている。

【難が有るから有り難い】ど
ん底を経験した彼が語る日本
一無口な講演は毎回感動を与
えている。(取材・文フリーライター
柳本博)当社「ギャラリーカフェ
集」で7月中作品展を開催した

京都&東山
ぶらりピカリ
29

牛若丸・弁慶の
出会った松原橋

現在の
五条大
橋は松

原通(平安京の五条坊門通)に有った橋を天正年間(1573~92)、豊臣秀吉が、方広寺大仏殿造営の際に南へ移したものの、有名な牛若丸と弁慶が出会ったという伝説の橋は松原橋の地点説と、鴨川には橋は架かつておらず五条天神宮の近く、西洞院通に沿って流れていた川に架かつていた橋であると



尚、現在の松原橋は1936年(昭10)鴨川大水害で倒壊流失後に架け替えられたもの。その水害で鴨川に架かる橋は丸太町以南では四条大橋

も一部欠落、(写真)団栗・五条・正面橋など七条大橋以外は流失した。余談ではあるが我家も床上浸水し、一歳半の編集者は「盥」に乗せられて移動したと聞いている。さて、松原通(まっばらどおり)は京都市の東西の通りの一つ。東は清水寺門前から東大路を



渡り、西は

佐井西通の一筋西まで。東の端、清水寺門前から東大路通までは清水道ともよばれる。寺町通から西は平安京の五条大路にあたる。松並木の綺麗な通から「五条



松原通」と言われる。注・烏丸松原以北から店(七条本町)に戻る最速の抜け道。「松原通」の名前だけが残った。現在は多くの区間が一方通行の細い道で、東大路以東が西行き、一方通行、東大路以西から木屋町までは東行、河原町木屋町間は拡幅され両方通行、河原町・烏丸間が東行き一方通行、烏丸・大宮通間が西行きの一方通行、大宮以西は拡幅され両方通行。車では松原通全部を通り抜けられない

市電が走った街
京都を巡る
福田静一



五条坂を出た市電は、緩やかに登りながら東大路通を北上します。車窓には、商家・民家の混在した街並みが続き



狭い清水道の電停に停車する市電

ますが、京都らしい町家も見え始めてきます。自動車の通行量は、五条から一段と増加し、市電は軌道に割り込む自動車に阻まれて、なかなか進みません。自動車が最優先の時代、市電はただおとなしく待つしかありません。やがて着く停留所が「清水道」です。東大路通と交わる道路は松原通で、たいへん狭い通りです。ふつつ、電停がある通りは、少なくとも自動車が十分に通れるぐらいの道幅という認識からすると、とても電停があるとは思えず、突然、安全地帯が見えたという感じです。

清水寺へは、前回に紹介の五条坂からまっすぐに行くことも出来ませんが、この狭い松原通を東へ行き、産寧坂を見ながら行くのが、やはり本道でしょう。京の街歩きは、角を折れ、坂を行くほうが、変化があつて楽しみも倍加します。ここまで来ると、車窓右手に塔の相輪がわずかに見えてきます。「八坂の塔」と呼ばれる法観寺の五重塔です。清水道から二筋目北の八坂通に入った途端、東大路通の喧騒が遠のき、京都にきた、という風景が目前に広がります。八坂の塔を入れた写真は、イコール京都であり、京都の代表的な光景と言えます。ただ、八坂の塔と、市電を一緒に収めようとすると、狭い八坂通を通る一瞬しかなく、



八坂の塔とは一瞬の出会い

だ。ヤッパリ「古都」は動かないのが値打ちなのかな。撮影には「いぶん苦労した思ひ出があります。交差点から松原通を西へ歩くと、六波羅蜜寺があります。天曆五年(951)醍醐天皇第二皇子の光勝空也上人により開創された、西国第十七番の札所です。規模はその後大きくなり、荘厳華麗な天台別院として栄えます。平安後期、広大な境内には権勢を誇る平家一門の邸館が栄え、その数五千余りに及んだと言います。現在の本堂は、昭和四十四年に開創一千年を記念して解体修理が行われ、丹の色も鮮やかに当時の姿をしのばせています。重要文化財の質、量において藤原、鎌倉期の宝庫と言われている。市電時代には、東大路通の東側に東山消防署がありましたが、それが、昭和五十八年、東大路通の西側にあつたホテルの跡地に移転、合わせて東山区役所も、東山七条から移転、図書館や体育館が入居する総合庁舎となりました。さらに、松原警察署が、昨年、洛東病院の跡地に移転して東山警察署として誕生し、この付近が東山区の行政上の中心となりました。また東山区内の小学校を統合した開晴小学校もすぐ近くにある、現在の清水道です。(注)現在は八坂の塔の電気等の線は地中化し電柱は無い。

酒屋で生きて生かされて

第五十九話

酒屋の黄金時代

酒卸業好調にスタート

前に述べましたが酒業界で戦後初の国の規制緩和で東山区に5店舗「乙卸」業がスタートしました。五店共「朝日麦酒特約代理店」です。まだ戦後色が残り、売り手市場メーカーの力が圧倒的に強い時代。「集中排除法」朝日と日本(現サッポロ)に分割、麒麟はそのままで計三社です。巷間の噂で「麒麟分割案」に朝日麦酒山本為三郎氏が異議を言ったため「分割」は避けられたと聞きました。それが麒麟はナショナル・西日本中心の朝日、名古屋東サッポロのローカルのブランド化し、麒麟独走のを遠因と思っています。

東山区の五店舗の内、戦前からの酒問屋は祇園の浅井商店だけで他は小売店の立場を捨て「酒乙卸」になったのです。父は戦前政府主導の「酒統制会社」に勤務していてそれを引継いだ全国規模の大酒卸「日酒販」の「荷捌所」を東山で二ヶ所引き受けていましたので、東山下京区の多くの酒小売店にお取引を戴きました。何しろ「酒」そのそのもの

が不足時代で、仕入先を滋賀・三重・岐阜・鳥取と広げ「酒」を届けました。その酒はその酒蔵の「銘柄」でなく有名な「月××・白××」のラベルで飲食店や家庭に届いていたのも事実です。

父は、品質よい酒だからその「銘柄」で販売して欲しいと「酒蔵毎の友の会」づくり販売努力をしました。卸は順調で翌年店舗改造し店先から奥の蔵まで「トロツコ」で運べる様になりました。トロツコを付ける噂を何処かで聞かれて父の戦

友Kさんが見えて「家相に悪い中止を」を忠告されました。私も同席してそれを聞き「家相」の発言に違和感、父は「既に取っかかったので」「このまま進みます」と答えました。事務所・応接間・倉庫も広げ使用人も増え、業績は年々上がりました。父は夜は何処かへ消え、朝帰りが毎度のことになりました。父と母(義)の喧嘩が絶えません。喧嘩後は又、父は行方不明です。私は祇園に妾宅があることは知っていて、偶にそこで父と食事をしたことが有ります。色男の父の女性騒動はその後20数年続きます。



あるから、アバウト30万円の支払いしなくなり。よい・保険会社にとって美味しい商品なのです。反面、契約者からすれば考えなければなりません。日本人はみんな健康保険に加入しているのだから、医療保険なん

要らないのでは？でもちょっと待ってください。医学の発達とともに、命にかかわる病気に対する有効な治療法が開発されていますが、健康保険の効かないものがあるのです。重粒子線治療がその例です。ガンの部位だけをピンポイントでやっつけてくれるのですが、50万円ほど自己負担となります。先進医療特約が付加された

欄で東山区五店の酒卸が出来たこと書いた。内、三店がトロツコを設置し、その全店が倒産・整理(私共も)している。他業種でも近所にトロツコが有った商社も潰れた。家相の所為だろうか。私は否である。京都の家は商家でも「鰻の寝床」で奥行が深く「蔵」は通常一番奥。トロツコが無いと商品の出入れ「人力」です。人力ではシンドイがトロツコで楽になる。従って余分な仕入れをし、不良在庫を増やす結果となる。それが命取りになったのだ。便利や効率良さが、足を引張ることもある。

医療保険は、この高額な重粒子線治療を保障します。ところで先進医療特約に対する月払保険料は、100円以下です。・だったら、先進医療だけ保険に加入すればいいのでは？

ところが保険会社は先進医療だけでは受けてくれません。入院給付金に対する保険料を支払わなければならない仕掛けになっています。・上納金ですよ。入院給付日額は最低額にするのがいいのでは、と考えます。

入院給付日額は5,000円で十分、できる事なら3,000円でも受けてくれる保険会社を捜されるといいと思います。

編集後記 八月は原爆の日である。2045年8月6日広島20万・9日長崎7万人以上が一瞬にして殺された。そして15日にボツダム宣言を受諾、敗戦。原爆投下は小六の頃、電気ガス・水道も無い疎開地で、敗戦の放送は「祖父重篤」で京都で聞いた。祖父は「陛下に申し分け無い」と泣いた。九月創業者の祖父(58)が亡くなった。着物で刺子の前掛け「酒を利く」粋な姿は今も目に残っている。僕も酒屋になる。と思ったものだから66年。その間に父も亡くした。人(女性)に優しい父であった。その父を反面教師できた私は融通の利かない頑固者らしい。

「思い込み」が強く諦めが悪い。決めたことを直ぐに修正できない。「とんからりん」もその所為で10年以上続けてきた。6月「店」の近くに居を移し、三年先の創業百年に向かって自分が考えている「理想の店」を創り上げたいと思っているが、まだ動き出せてない。お酒(酉)という商品を真ん中に「集まり」と「楽しみ」上と下につけてサカタニの「冠」にしている。名は体を表すというが今は「名」のみ先行が現実の姿。

一人相撲ではどうにもならない。多くのお客さん(会員)さんの力をお借りしないと画龍点睛に終わる。東山に出来た「開晴小中学校」同様、晴(ハルミ)入れたい。晴×

知らない損をする

清水克彦

医療保険はよく考えたら必要なのではないか？

例えば40歳男性が、入院1日5,000円の支払い、支払い限度日数60日、月払い保険料300円の終身医療保険に加入し、80歳まで保険料を支払い続けたとします。支払い保険料のトータルは、2,300円×12月×40年 = 1,044,000円。何日入院すれば元が取れるか？ 1,044,000円÷5,000円 = 208.8日入院しないと元が取れません。保険会社としては、支払い限度日数60日の枠が

医療保険はよく考えたら必要なのではないか？